



JAPAN HERITAGE  
日本遺産

館 林 市 立 資 料 館  
「 里 沼 」 構 成 文 化 財  
追 加 認 定 記 念 企 画 展

た

沼

か

辺

ら

の



# はじめに

令和元年度に文化庁「日本遺産」に認定された【里沼 (SATO-NUMA) —『祈り』『実り』『守り』の沼が磨き上げた館林の沼辺文化—】の構成文化財として、今年度、新たに4項目が追加認定されました。

本展では、これを記念し、新たに追加認定となった「蛇沼及び間堀遺跡出土品」<sup>へびぬま まぼり いせき</sup>「近藤沼 (ホリアゲタ)」<sup>こんどうぬま</sup>「長良神社と館林城下町の総構え」<sup>ながら じんじや</sup>「織姫神社と館林紬」<sup>たてばやしつむぎ</sup>の4項目について資料とともに紹介します。

展示を通して、日本遺産「里沼」についての理解を深めていただければ幸いです。

また、本展の開催にあたり、多くの方々のご協力<sup>たまわ</sup>を賜りました。心より御礼申しあげます。

令和3年10月2日

館林市教育委員会  
館林市「日本遺産」推進協議会

## ■日本遺産「里沼」

令和元年(2019)5月20日、館林市のストーリー【里沼 (SATO-NUMA) —『祈り』『実り』『守り』の沼<sup>みが</sup>が磨き上げた館林の沼辺文化—】が、文化庁「日本遺産」に認定されました。市域に点在する沼々と館林の人々が共生しながら現在まで繋いできた歴史・文化、暮らしや生業を「里沼」と表現し、館林特有の沼辺文化を世界に発信することにより、地域住民のシビックプライド<sup>じょうせい</sup>醸成や、地場産業の復興、着地型観光の振興を図る取り組みです。

## ■追加認定の経緯

館林市日本遺産プロジェクトでは、令和元年5月の日本遺産認定後に「里沼」の魅力をもっと高めるため、有識者や地元住民との意見交換を通して新たな構成文化財の追加を検討してきました。

令和元年5月20日	館林市「里沼」ストーリーが「日本遺産」に認定される。
令和元年6月27日	《館林市「日本遺産」推進協議会設立総会》委員から蛇沼・近藤沼の追加について要望がある。
令和2年7月27日	《館林市「日本遺産」推進協議会会議》蛇沼・近藤沼・館林紬の追加申請の方針が決まる。
令和2年8月～	上記に長良神社を加えた4項目について、追加申請に向けた調査及び関係者との意見交換を行う。
令和3年3月	文化庁に追加認定申請書を提出。
令和3年7月16日	追加認定が決定。

今回の構成文化財追加認定により、日本遺産「里沼」ストーリーの4つの章立て ([39] 蛇沼及び間堀遺跡出土品→第1章(祈りの沼)、[40] 近藤沼(ホリアゲタ)→第2章(実りの沼)、[41] 長良神社と館林城下町の総構え→第3章(守りの沼)、[42] 織姫神社と館林紬→第4章(里沼のもてなし文化)) にそれぞれ1項目ずつが加わるかたちとなります。

# 祈り 蛇沼及び間堀遺跡出土品



蛇沼は館林市の南部にあり、「祈りの沼」茂林寺沼の東に位置する周囲約1kmの細長い沼です。この沼の周辺では、古来より集落が営まれ、人々の暮らしの拠点となっていました。とくに縄文時代の遺物は、多様な装飾の土器などが発見されており、これらからは沼辺に生きた縄文人の暮らしと「祈り」の心をうかがい知ることができます。

また、蛇沼周辺には今もなお、「里沼」の原風景ともいえる湿原が広がり、絶滅危惧種であるオニバスが花を咲かせます。

沼に足を運ぶと、古来より沼を大切にしてきた人々の心を感じることでしょう。



## 間堀遺跡

蛇沼東側台地上に位置する間堀遺跡からは、縄文時代中期のムラの跡が発見されました。ムラの規模は東西250m・南北200mほどと推測され、複数の住居の存在が確認されています。また、遺物も関東地方をはじめ周辺各地の特色を示す文様を持つ土器が多く出土しています。

このほかにも、集落跡は市内沼周辺で確認されており、古くから人々が沼の恩恵を受けていたことがうかがえます。



間堀遺跡出土土器

## 蛇沼の環境保全活動

現在、蛇沼では、地域住民から成る里沼育成ボランティアや館林市立第四中学校の生徒などによる葦刈りや除草作業、ゴミ拾いなどが定期的に行われています。

このような活動により、沼に咲く絶滅危惧種オニバスの生育環境や蛇沼の原風景が守られてきました。



蛇沼全景



蛇沼に咲くオニバス

# 実り

## 近藤沼（ホリアゲタ）



こんどう ぬま

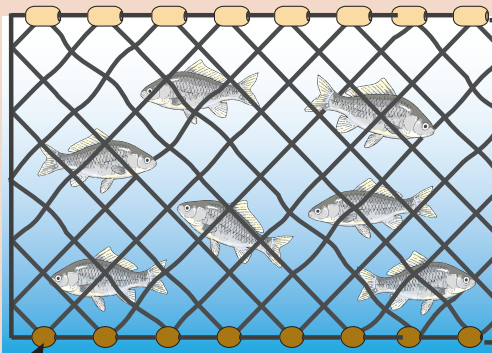
近藤沼は館林市の南西部に位置する周囲約 2.5 kmの沼です。この沼は、多々良沼同様「実りの沼」として、古くから漁場や田の水源として利用されてきました。

しも みばやし よしだ うしごろう

くし

明治時代には、下三木の吉田丑五郎を中心に、沼内に「ホリアゲタ」と呼ばれる櫛の歯状の水田と「キロコボリ」と呼ばれる水路が造成されました。ホリアゲタでは、稲の収穫などに舟が用いられ、また堀部分では魚をすることができました。

このような近藤沼独特の景観は、昭和 50 年 (1975) からの土地改良により消失してしまいました。しかし、近藤沼は現在も周辺の田畑を潤し、釣り場として人々に親しまれています。



土鍾



土鍾（北近藤第一地点遺跡出土）

### 土製漁具

どすい

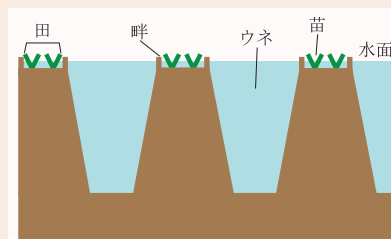
土でできた漁網用のおもりを「土鍾」といい、縄文時代から使われていました。近藤沼の近くにある北近藤第一地点遺跡からも古墳時代の土鍾が発見されており、古来より人々が近藤沼から「実り」の恩恵を受けていたことがわかります。

### ホリアゲタ

「ホリアゲタ」とは、沼地などで沼底の泥土などを掻きとって、かさ上げした部分に造成した水田のことです。干拓や埋め立てが困難な沼地でも稲作を行うための先人の知恵と言えます。また、ホリアゲタのウネと呼ばれる堀の部分では魚を採ることもできました。近藤沼は、水田として、そして漁場として、古くから人々に「実り」の恩恵を与え、暮らしを支えてきました。



近藤沼のホリアゲタ（昭和 22 年）



ホリアゲタの模式図

# 守り長良神社と館林城下町の総構え



市内代官町にある長良神社は、「守りの沼」城沼を要害とした館林城下町の西北端に鎮座しており、城下町の人々に崇められてきました。また、その周囲に残る土塁や堀を利用した水路は、近世館林城下全体を守った総構えの様相を彷彿とさせます。

平安時代初期の役人・藤原長良を祀る長良神社は、ここだけでなく、中世から館林・邑楽地域に広く分布していました。これらは、邑楽郡一帯の佐貫荘の経営や水辺の開発、それにより成り立つ人々の暮らしの安定のため、大切にされてきました。

現在も長良神社はまちの守り神として人々に崇められ、身近な神社として親しまれています。



長良神社（代官町）



長良かぶと

## 長良神社

長良神社は、平安時代初期の役人・藤原長良を祀っています。邑楽郡一帯の佐貫荘を治めた佐貫氏と深い関わりがあった人物とされています。

藤原長良には水辺の大蛇を退治した伝説や、川・沼との結びつきのある伝承が伝えられ、治水の神として崇められていました。そのため、長良神社は水辺に多く分布している傾向があります。

## 城下町の総構え

館林城は、15世紀中頃、赤井氏によって築かれました。城沼に突き出した舌状台地上にあり、近世城郭では県内でも標高が低く、標高20メートルの台地上にある平城でした。

天正18年(1590)に榊原康政が10万石の城主となると、城下町全体を堀と土塁で総構えとし、町の周縁部に寺社を集めてより堅固な城として整備しました。その区割りの多くは現在も残っています。



第一中学校北側に残る堀の名残

もてなし

# 織姫神社と館林紬



館林・邑楽地域は江戸時代から綿花栽培が盛んでした。農家では副業として機織りが行われ、城下町にも多くの綿屋商人がいました。

明治時代以降、館林織物は地場産業として発展し、<sup>たつまち</sup> 豎町に織物市場が開設されました。また、織物組合事務所が館林町に移され、同敷地内には織姫神社が鎮座し、館林の観光案内図でも紹介されるようになりました。

このようななかで「里沼」のもてなし文化を支えた様々な織物が誕生しました。なかでも「館林紬」は時代に合わせて進化を続け、衣類だけでなく、日用雑貨やインテリアなど幅広く用いられ、現在もたくさんの人々に親しまれています。



織姫神社（代官町）

<sup>おりひめ じんじゃ</sup> 織姫神社は織物の神様を祀った神社です。館林の織姫神社は、<sup>ほんこん や ちょう</sup> もともと本紺屋町（現仲町）にあった館林織物同業組合事務所（織物会館）の敷地内に祀られていましたが、現在は代官町の長良神社境内に移設されています。

<sup>しんごうがく</sup> 神号額の文字は邑楽郡出身の書家・<sup>おか どころ</sup> 岡戸畹瑩（1851-1921）が手がけています。

昭和初期の織物組合事務所と織姫神社（本紺屋町 / 現仲町）



## 館林紬

起源は鎌倉時代に産出された木綿織「<sup>うずらおり</sup> 鶉織」にあるとされます。その後、館林産の木綿織は江戸市場で評判を得て、館林は織物の名産地となりました。

アジア・太平洋戦争時の停滞期を経て、戦後、館林の織物業界は次第に活気を取り戻していきます。とくに、紬糸を使った平織の織物「館林紬」は館林織物の中心となり、今も続く伝統工芸品となりました。



昭和20～30年代の館林紬



現在の館林紬

# 展示資料一覧

\*は当館蔵

No.	セクション	資料名	時期	所蔵者
1	はじめに	日本遺産認定証	令和3年(2021)	館林市
2	蛇沼及び 間堀遺跡出土品	写真 蛇沼全景	令和3年(2021)	*
3		写真 蛇沼に咲くオニバス	令和3年(2021)	*
4		写真 間堀遺跡住居跡	昭和57年(1982)	*
5		間堀遺跡出土石器、土器	縄文時代	*
6		写真 環境保全活動の様子	令和元年(2019)	市地球環境課
7		土錘(北近藤第一地点遺跡)	古墳時代後期	*
8	近藤沼 (ホリアゲタ)	写真 近藤沼のホリアゲタ(米軍撮影)	昭和22年(1947)	国土地理院
9		写真 現在の近藤沼(国土地理院撮影空中写真)	平成21年(2009)	国土地理院
10		写真 吉田丑五郎翁碑	昭和30年(1955)建立	*
11		複製 近藤沼漁場図	明治~昭和時代初期	原資料:個人
12		写真 土地改良区竣工記念碑	昭和63年(1988)建立	*
13		近藤沼土地改良区換地図	昭和60年(1985)	近藤沼土地改良区事務所
14		写真 近藤沼の釣り風景	平成22年(2010)	広聴広報係
15		長良神社と 館林城下町の総構え	複製 長良神社境内図(「古社寺調」より)	明治28~29年
16	長良神社由緒書		不明	長良神社(代官町)
17	長良神社宗源宣旨		享保5年(1720)	長良神社(代官町)
18	写真 長良神社(代官町)		令和3年(2021)	*
19	長良かぶと		平安時代	長良神社(代官町)
20	御朱印		令和3年(2021)	長良神社(代官町)
21	複製 館林御城図(綱吉時代)		延宝6年(1678)頃	国立国会図書館
22	写真 旧館林城の堀跡(一中北側)			*
23	わた、まゆだま			山岸織物
24	座繰機、木杵			*
25	写真 館林城下ほか綿屋株人別控帳	天保9年(1838)	原資料:市史編さんセンター	
26	躍進 館林織物の芽		*	
27	産業とつつじの館林	昭和26年(1951)	*	
28	上州館林花山案内	昭和24年以降	*	
29	織物会館絵はがき		*	
30	写真 昭和初期の織姫神社(『現勢写真集 館林』より)	昭和初期	*	
31	写真 現在の織姫神社	令和3年(2021)	*	
32	織姫神社と館林紬	冊子 群馬の織物	昭和27年(1952)	*
33		かせ糸		山岸織物
34		糸玉		山岸織物
35		杼(シャトル)		山岸織物
36		館林紬 反物(館林紬製品証明証付)	昭和20~30年代	山岸織物
37		館林紬 反物		山岸織物
38		館林紬 縞帳		山岸織物
39		館林紬 商標		*
40		館林紬を使用した作品		個人
41		館林紬のブラウス、ネックレス、帽子		山岸織物

## 協力者・協力機関(敬称略・順不同)

荻原茂 鈴木理彦 安楽岡信子 長良神社(代官町) 山岸織物  
 近藤沼土地改良区事務所 群馬県立文書館  
 秘書課広聴広報係 地球環境課環境保全係 日本遺産推進係  
 館林市史編さんセンター

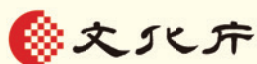
このほかにも多くの方々の協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

館林市立資料館  
日本遺産「里沼」構成文化財追加認定記念企画展

## 「沼辺のたから」

会 期 令和3年10月2日～12月19日

発 行 館林市教育委員会文化振興課・館林市「日本遺産」推進協議会  
(〒374-0018 群馬県館林市城町3-1 電話：0276-74-4111)



令和3年度文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）